



福井県若狭町の三方湖南端に面白い博物館があります。三方五湖のひとつ水月湖の湖底をボーリングした7万年分・45mの「年縞」を展示しています。45mを横に寝かして展示する為に、建物も長い一直線の設計です。展示内容や建物について、「日本博物館協会賞」「科学ジャーナリスト賞特別賞」や「公共建築協会賞優秀賞」等々、幾つも受賞しています。

三方五湖は、2005年にラムサール条約湿地に登録されています。海側の2湖が美浜町に、残りの3湖が若狭町にあり、日向湖は海水で、一番奥の三方湖は淡水、その他の久々子湖、水月湖と菅湖は汽水だそうです。その1つ水月湖は、流れ込む大きな川も無く、表層部には三方湖から淡水が流れ込み、その下の層には久々子湖から海水に近い重たい汽水が流れ込み、風が吹いてもそれらは混じり合わず、底部は無酸素状態となり嫌気性細菌が生息しているとのこと。春夏は珪藻やプランクトン死骸の黒い層、秋冬は粘土質の白い層が静かに堆積して、樹木の年輪と同じように年縞ができるそうです。年縞が発見されたのは1991年、それぞれの縞の中に含まれる花粉・黄砂や火山灰等々から、気候変動の他、洪水・地震等の回数も掴め、年縞を数える作業が完了した2012年に、「年代の標準ものさし」としての価値が国際的に認められたとのこと。年縞の分析から地磁気の永年変化やエクスカージョンといわれる短期間大規模変化も判明しているそうです。上の写真がこの**福井県年縞博物館**で、70才以上は入場無料でした。すぐ横の若狭三方縄文博物館も見学しました。



この博物館には、NPO 法人建築技術支援協会の 2026 年歴史的建造物等探訪旅行で立寄りました。米原駅集合で、若狭湾岸から福知山、綾部、京丹波と回って、亀岡駅解散というマイクロバスでの 2 泊 3 日の旅行でした。国宝や重要文化財の建物等を見て回りました。3 日間で私は 28km 程歩きました。会員以外でも参加可能です。ご興味がある方、次の機会にお誘い致しますので、お知らせください。この後は、その旅行の 1 日目の立ち寄り先の写真を紹介します。

まずは敦賀港から。明治時代ヨーロッパから日本への玄関口だった敦賀港、新橋から敦賀・金ヶ崎直通の欧亜国際連絡列車が運行され、ウラジオストク直行便に連絡していたそうです。1920 年代ポーランド孤児、1940 年代「命のビザ」ユダヤ難民が上陸した地で、税関検査所等 4 棟を復元した「**敦賀ムゼウム**」は、「命の大切さと平和の尊さ発信」の資料館になっています。すぐ裏が金ヶ崎城址で、1570 年に織田信長が朝倉攻めするとき、浅井長政の離反に気付き、京都に撤退したところです。「**敦賀赤レンガ倉庫**」は、1905 年米国の石油会社が石油の貯蔵庫として建設したもので、登録有形文化財ですが、現在は北棟が鉄道と港のジオラマ館、南棟がレストラン館になっています。「**敦賀鉄道資料館**」は、旧敦賀港駅舎です。



敦賀ムゼウム



敦賀赤レンガ倉庫



敦賀鉄道資料館

古事記や日本書紀にも登場し、2 千年以上の歴史があると言われる越前国一之宮の「**氣比神宮**」。松尾芭蕉も立寄っているとのことで、像や句碑がありました。国指定重要文化財の大鳥居は、702 年創建、1645 年再建の木造両部鳥居で高さ 11m あり、奈良の春日大社・広島の大鳥居と並ぶ日本三大木造大鳥居の一つです。佐渡島から流れ着いたムロで建てたとの説もあります。境内社の角鹿（つめが）神社が「敦賀」の地名発祥の由来とのことです。



氣比神宮 外拝殿



国指定重要文化財 木造大鳥居

敦賀市立博物館



「**敦賀市立博物館**」は、旧大和田銀行本店本館で国指定重要文化財ですが、博物館は休館日で屋内には入れませんでした。鉄骨レンガ造一部鉄筋コンクリート造、地上 3 階、地下 1 階建、延面積 1,417.7 m²、1927 年竣工の建物です。銀行としての機能のみでなく、市民が利用するための講堂（3 階）やレストラン（地階）も備え、複数玄関で、銀行と他の利用者を分ける工夫もされ、北陸で最初のエレベータを設置、暖房や水洗トイレもあったとのことです。

「西福寺」は、御影堂・阿弥陀堂・書院が国指定重要文化財、1400 坪の書院庭園は国指定名勝になっています。重要文化財の絵画や書も多数所蔵されています。御影堂は修復工事中で、大きな屋根で覆われていました。敦賀市指定天然記念物、樹齢 640～650 年、高さ 13.5m 幹周 7.6m 根回り 12.3m と高さ 8m 幹周 6.8m 根回り 11.8m の 2 株のスダジイがあります（福井県のスダジイの 1 位、2 位）。大きい方は「新日本名木百選」にも選定されています。



「三方石観世音」に立寄り、その後三方湖畔の「茅葺き舟小屋」へ。この辺りは梅の産地で、梅林が広がっていました。対岸の梅林や水田を往来するための舟の小屋として江戸時代から使われていたそうです。農道が整備される昭和の中頃までは、特産の青梅を舟に載せて敦賀や美浜の市場や民家に売りに出ていたとのこと。つい最近、地球温暖化による海面上昇で淡水湖とされていた三方湖でもフジツボが繁殖、淡水生の水草ヒシが発生していないとのニュースもありました。



1 泊目の宿は小浜の人魚の浜海岸の民宿で、大変美味しい魚のフルコースを堪能しました。軒裏にツバメが営巣していました。機会があればまた利用したい宿です。

旅行の 2 日目・3 日目については、また別の機会に。

(写真撮影 2026.06.08・09)



<Google マップ参照>

URL は、下の「PDF はこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

福井県年縞博物館 <https://www.google.co.jp/maps/@35.5595426,135.8973249,17.23z>

敦賀ムゼウム 敦賀赤レンガ倉庫 敦賀鉄道資料館

<https://www.google.co.jp/maps/@35.6625304,136.0731534,16.71z>

氣比神宮 <https://www.google.co.jp/maps/@35.6555213,136.0742907,17.02z>

敦賀市立博物館 <https://www.google.co.jp/maps/@35.6566077,136.0688179,19.27z>

西福寺 <https://www.google.co.jp/maps/@35.657643,136.0315893,16.77z>

三方石観世音 <https://www.google.co.jp/maps/@35.5618952,135.9143612,18z>

茅葺き舟小屋 <https://www.google.co.jp/maps/@35.5731293,135.8694923,16.18z>

(2026.08.01)